

2011年3月は大変な災害と共に歴史に刻まれることとなりました。

被害にあわれた方、命をおとされた方、今なお困難な状況の中におられる方々のことを思うと本当に胸が痛く、かたしく苦しい思いになります。

関西に住む私たちにとって今回の災害による直接的な影響は現地に比べたらないに等しいはずなのですが、東はあの日以降、体調を崩したり心がふさいでしまっているのだという人の話を近くで聞くことが多くなりました。

未だ緊張の続く原発のことや、映像で見る現地の様子に反応して...ということももちろんありますが、やはりそれ以前に私たちの同じ島の上に生きる者同士としてのつながりが一見何事も変わりていないように見えるこの遊覧の地にも、静かに、確かに、何かを伝達させているからだと思います。

「私たちは今なんともないんだから」「いつもと同じにかんがろう」と思っても、どこか不自然さが残る...。これほどのことが起こると、やはり、「いつも通り」は色々な意味でむずかしいものとなりました。

時代は今、急速に変化しているのかもしれません。

今までのやり方ではもうたがめなことが、個人の生活の中にもたくさんある、それはやはり、もうこの先のままにはしておけない部分のようです。

今までよりもう少し真剣に自分の中のその部分と向き合おう。少しづつでも、変化させる必要があるのではないかと、自分自身に打ちして今そんな風に思っています。

この年が、どうぞ
多くの東りも共に生み出す年が
ありますように。

2011年3月

暮らし、広場 末富 景子

